審 査 員 特 別 賞

「　緊迫のおうち時間　」

商学科　4 年　岩井　泰樹

普段、家の中ではジャージやスウェットなどの楽な服装で、テレビや YouTube を観てダラダラと過ごすものだ。しかし、2020 年は違った。家の中でも窮屈な服装で過ごし、パソコンと向かい合い、画面の奥の人からの質問に緊張しながら答えていたのだ。もはや、家の中は落ち着ける空間とは程遠いものとなっていた。

大学 3 年次は対面での面接の練習をし、もうすぐ始まる就職活動に向けて意気込んでいた。対面での面接は、入室時のマナーから始まる。「ドアのノックは 2 回、いや 3 回だったっけ」頭の中はパニックになりながらも、練習を重ねていた。

そして、いよいよ採用面接を受け始めた頃、治療法が確立されていない新型のウイルスが蔓延したことで、対面での面接はほとんどなくなった。その代わりに行われたのがオンライン面接だ。「オンライン面接の練習なんてしていない」「ZOOM ってなに」そんな不安が自粛中の家の中で襲った。

だが、この状況下にあるのは自分だけではない。就職活動中の人、すべてが同じ状況下にある。つまり、入室時のマナーの練習がオンライン面接の役に立たなくても、決して他の人から出遅れたわけではないと気付いた。そこから、そんな不安は少し和らぎ、緊張しながらもオンライン面接を家の中で受け続けた。

無事企業からの内定も頂き、就職活動も終了した。2020 年はこれだけ緊迫したおうち時間を過ごしたのだから、まだ当分続きそうなおうち時間はダラダラしてもいいだろうという、なんとも緊迫感のない自分のメンタルなのだろうか。